

**農林水産大臣賞**  
ふじやましゅうらくかつせいかきょうぎかい  
**受賞者 富士山集落活性化協議会**  
(群馬県利根郡川場村)

【富士山集落の「**た**なだ・**か**んきょう・**み**らい」を大切にしていきます】

## 1 取組の動機と背景

富士山集落活性化協議会が活動する川場村富士山集落は、自然豊かな川場村の中でも最も山間部に位置し、集落の戸数は 26 戸と非常に少なく、近隣に年間 190 万人の集客がある道の駅「川場田園プラザ」があるものの、富士山集落は交流人口の少ない地域であった。

急速な少子高齢化と生活形態が変化するなかで、26 戸の集落が近い将来どうなっていくか、また、先人達の知恵が結集した石垣の棚田を守り暮らしてきた集落であるが、大型機械が導入できない棚田で後継者がいなくなればすぐに荒廃し、この景観は失われてしまうことが危惧されていた。

このような状況の中、「富士山集落の里山環境や文化を未来に継承していくために何ができるのか」を平成 27 年から地域全体で話し合い、集落の全戸参加によって平成 27 年 2 月に「富士山集落活性化協議会」を発足させ、集落を元気にすること、集落独自の活性化を目標とし、里山環境や棚田を生かした都市との交流や景観保全で地域活性化の取組を開始した。

## 2 主なむらづくりの内容

- 集落内に 2 ha ある棚田の一部はオーナー制度を導入し、令和元年度は主に都市部から 18 組が参加。また、水路や農道の整備を都市部の大学と連携して進め、交流の促進と景観及び耕作環境改善に寄与。
- 昭和 56 年から東京都世田谷区と縁組協定を結んでおり、集落の女性グループ「花の会」と連携した紅花染体験プログラム等のイベントなど、活発な都市と農村の交流を継続。
- 平成 28 年から始めた棚田に数千本のロウソクを灯す代表的なイベント「冬×富士山プロジェクト」では、当初 100 名程度の来客数が、令和 2 年には 1,000 名に増加。
- 協議会の取組等を協議会広報誌「ふじやま通信」で協議会員（集落全戸）にお知らせすることで、情報共有と希薄になりつつあった集落内のコミュニティを強化。



「棚田」の田植え



「花の会」紅花染め



摘み取った「紅花」



「冬×富士山プロジェクト」風景